

關於“-temoii”句意之探討 —以未實現之事象為中心—

林青樺

淡江大學日本語文學系助理教授

摘要

本論文以行為主體的特徵及「-temoii」所使用之句子類型的觀點，來探討分析表示未實現事象的「-temoii」的句意。首先，本論文先探討表示行為的「-temoii」，得知動詞所表示之行為主體除了說話者及聽者之外，還包含了說話者及聽者之外的特定對象及非特定對象。而經由本論文的深入探討之後，得知在「-temoii」的句意方面，除了先行研究中所指出的〈許可〉、〈容許〉之外，還可用來表示〈為了自己的意圖〉、〈為了他人的意圖〉、〈請託〉、〈建議〉、〈客觀的可能〉等意思。而會產生如此多樣化的句意，乃起因於說話者及行為主體的關係，以及「-temoii」所使用的句型是平述句型或是疑問句型等因素。另一方面，經由本論文的考察結果得知，「-temoii」不只用來表示行為，還可用來表示狀態，而由於狀態主體無法自主性地控制動詞所表示的事象，因此表示狀態的「-temoii」只能用來表示〈容許〉。

關鍵詞：「-temoii」、未實現、行為、狀態、句型類型

A Study of the Semantic Analysis of “-temoii”: On the unrealized Events

LIN,Chin-hwa

Assistant Professor, Tamkang University

Abstract

This paper describes the meaning of “-temoii” that express unrealized events in modern Japanese. The viewpoint of this paper is the characteristic of agent and the type of sentences used in “-temoii”. The conclusions are as follows.

- (1) The agents of the actions that expressed by “-temoii” are not only speaker and listener, but also including outsider and indefinite agents.
- (2) The meaning of “-temoii” which expresses actions can be classified as [permission], [admit], [intention for oneself], [intention for otherone], [request], [advice], and [objective potentiality].
- (3) The meaning of “-temoii” which expresses state can be classified as [admit].
- (4) The reason why “-temoii” have various meanings results from the relationship between agent and speaker, and the type of sentence that used in “-temoii”.

Key words: “-temoii”, unrealized, action, state, type of sentence

「－てもいい」の意味機能に関する一考察 －未実現の事象を中心に－

林青樺

淡江大学日本語文学系助理教授

要旨

本論は、行為者の特徴と文の種類という観点から、未実現の事象を表す「－てもいい」の意味を考察したものである。まず、行為を表す「－てもいい」を検討した。その結果、行為者は話し手と聞き手のほかに、話し手と聞き手以外の特定の行為者の場合もあれば、特定できない場合もあることが明らかとなった。そして、「－てもいい」の意味は〈許可〉、〈許容〉のほかに、これまで明らかにされていなかった〈自分のための意向〉、〈他者のための意向〉、〈依頼〉、〈勧め〉、〈客観的可能〉などの意味も表わせることを明らかにした。これらの意味は、話し手と行為者との関係、平叙文か疑問文かという「－てもいい」の使われる文型の違いといったファクターによって決まってくるということが指摘できる。また、「－てもいい」は行為だけでなく、状態を表す場合も見られるが、状態を表す「－てもいい」の意味を考察した結果、主体が事象をコントロールできないことから、〈許容〉の意味しか表わせない、ということが明らかとなった。

キーワード：「－てもいい」、未実現、行為、状態、文の種類

「一てもいい」の意味機能に関する一考察 －未実現の事象を中心に－

林青樺

淡江大学日本語文学系助理教授

1. はじめに

「一てもいい」は、条件接続形式「一ても」と形容詞「いい」で作られた複合型形式であり、行為が許容されるものである、という意味を表すとされてきた。

- (1) 「ねえ、もっと実験してみてもいい？」(小川洋子『博士の愛した数式』)¹
- (2) 本当に大麻と合流してインドへ行っててもいいのだろうか。ますます不安はつのるばかりだが、インド旅行は確実に迫っていた。(さくらももこ『さるのこしかけ』)

(1)の「一てもいい」は話し手が聞き手に自分の行為「実験してみる」について〈許可〉を求めるのに対して、(2)の場合は、話し手が自分に「大麻と合流してインドへ行く」の〈許容〉を問いかける表現である。

「一てもいい」について論じている研究として、奥田靖雄(1996)、高梨信乃(1995)(2010)が挙げられる。

まず、奥田(1996)は、「していい」と「してもいい」が言い表すモーダルな意味を網羅的に記述し、「していい」は「《私》は、これからの、あい手の動作を、適切であると、肯定的に評価する」という意味を表すのに対し、「してもい

¹ 本論における例文について、実例の場合は例文の後ろに出典を記し、出典名の無いものは作例である。

い」は「《私》の、これからの動作は《私》の意志にしたがって実行することが可能であると、《私》は意志表示をする」という意味を表し、その意味が話し相手の中で、さまざまな場面にしばられながら、動作主体の人称性をとりかえて、許可、承諾、提案、許容のような場面的な意味に変容していくと説明している。

一方、高梨（1995）は「－してもいい」と「－していい」の二形式の違いを中心に考察を行い、その結果を次のようにまとめている。

- ① シテモイイの中核的な意味は「当該事態が容認できることを述べる」といったものである。
- ② シテモイイが文の中で担う意味は、事態の制御可能性、行為者の人称、容認のレベルという三つのファクターによって、〈許可〉〈意向〉〈許容〉〈外界的容認・可能〉に分化する。〈外界的容認・可能〉からは文脈によって〈不満・後悔〉の意味が派生する。
- ③ 上の5つの意味のうち、シテイイに置き換え可能なのは、〈許可〉と、〈外界的容認・可能〉のうちより容認の意味が強いものである。

（高梨（1995：252））

また、高梨（2010）は「－てもいい」の基本的意味は「当該事態が許容されることを表す」と指摘し、二次的意味を「当該事態の制御可能性」及び「実現性」を基準に、次のページの表1のように分類している²。

² 高梨（2010）は表1における（a）（b）（c）（d）について、以下のよう
に説明している。

（a） 当該事態が制御可能で未実現の場合である。行為者が聞き手

も〈許可〉を表すとは限らない。

- (3) 「あんだ、それじゃ、このお役目を他の人に譲ってもいいの？」(曾野綾子『砂糖菓子が壊れるとき』)

また、「一てもいい」の表す〈意向〉について、高梨(2010)は「〈意向〉と言っても、あくまで『その行為を行うことが許容できる』という消極的な意向の表明に留まる点で、意志形『しよう』などが表す〈意志〉とは性格が異なる」と説明しているが、具体的にどのように異なっているのかについては明らかになっていないと言わざるを得ない。さらに、表1の分類においては、行為者が話し手または聞き手しか想定されていないようであるが、次の(4)のように、行為者の特定が難しい場合もあるため、「一てもいい」を再検討する必要がある。

- (4) 普段の生活で見せる不器用ぶりとは比べものにならない、慣れた仕草だった。熟練した手つきと言ってもいいくらいだった。新しいメモはすぐさま、他の数々のメモたちに溶け込んだ。(小川洋子『博士の愛した数式』)

そこで、本論は、行為者の特徴と、「一てもいい」が使われる文の類型という観点から、「一てもいい」の意味機能を検討し、各意味がどのような条件において生じるかを明らかにしたい。なお、本論は下記の(5)(6)のような、実現した事象への〈不満〉や〈後悔〉を表す「一てもいい」を対象から外し、未実現の事象を中心に考察することとする。

- (5) もっと早く教えてくれてもいいじゃないか。
…〈不満〉
- (6) 彼に聞いてもよかったです、結局聞けません
でした …〈後悔〉

2. 行為を表す「ーてもいい」の意味機能について

2.1. 行為者が話し手の場合

ここでは、まず「ーてもいい」の表す行為者が話し手の場合を見てみよう。

2.1.1. 平叙文で表す「ーてもいい」

- (7) ベッドのなかで、私たちはヴァカンツァについて話しあった。スイスじゃなくシチリアもいい。マーヴはフィレンツェにいきたいという。北欧まで足をのばしてもいい。(江国香織『冷静と情熱のあいだ』)
- (8) あの人だけは信じてもいい、たぶんあの人は何にかのきっかけを待っているんだ、栄二はそう思った。(山本周五郎『さぶ』)
- (9) 「弱ったね。話してもいいけど、だれにも言うなよ。じつは、まもなく大洪水がくる。これに乗っていれば、助かるのだ。この洪水予報は、どうやら確実らしいのだ。」(星新一『かぼちやの馬車』)
- (10) 「そうかい、君は何時でもこつこつとよくやくやっているから、それぐらいの面倒はみてもいいんだよ。」(山崎豊子『白い巨塔 (四)』)
- (11) もし彼女が元気になるなら、自分が身代りになってもいい。(片山恭一『世界の中心で愛をさけぶ』)

(7) ～ (11) の「足をのばす」「信じる」「話す」「面倒を見る」「身代わりになる」は、行為者が話し手であり、話

し手にその行為を行う意志があるという行為者の〈意向〉を表す。しかし、一口に〈意向〉といっても、(7)(8)は話し手が自分のために行う行為を行う意志があるのに対して、(9)～(11)は話し手以外の誰かのために行う行為を行おうとする意志を表すと考えられる。つまり、行為の利益が話し手にあるかどうかという点で異なっている、ということである。次の例文の示すように、授受表現「てあげる」との共起の適格性から、上記の例文における「ーてもいい」の表す〈意向〉の違いがうかがえる。

- (7) ' ??北欧まで足をのばしてあげてもいい。
- (8) ' ??あの人だけは信じてあげてもいい。³
- (9) ' 話してあげてもいいけど、だれにも言うなよ。
- (10) ' それぐらいの面倒はみてあげてもいいんだよ。
- (11) ' もし彼女が元気になるなら、自分が身代わりになってあげてもいい。

ここでは(7)(8)の「ーてもいい」の意味を〈自分のための意向〉とし、授受表現「てあげる」との共起が可能である(9)～(11)の「ーてもいい」の意味を〈他者のための意向〉と呼ぶことにする。なお、〈他者のための意向〉を表す「ーてもいい」は、次の例文のように、授受表現が有標の形で文中に現れる場合もある。

- (12) 「君は自分のことばかり言っているけれど、少しはエディさんのことも思いやってやれよ。この一年、とにかく一緒にやってきてくれたんだ。それ

³ (8)の「信じる」は、相手のために行う行為としても考えられるが、ここでは行為者である栄二が自ら「信じる」ことを望んでいるため、授受表現「てあげる」との共起が不自然になると思われる。

に対して、君はこれまで何ひとつ酬いることができなかった。あやまるくらいのことをしてあげてもいいだろう。あの人には……もう、そんなに先があるわけじゃないんだ」(沢木耕太郎『一瞬の夏』)

(13) 「株券はいちおう中央と旭日の名義にしておくが、あなたの社の景気がよくなれば、いつでも株はそちらに返す。また、これをきっかけに、資金面の援助も考えてあげてもいい。」(星新一『人民は弱し官吏は強し』)

(14) 「どこか行くところがあるんならいいけれど、……もう日ぐれだし、困ったね。——なんなら、あんまり気の毒だから、少しのあいだ、うちに置いてあげてもいいよ。」(山本有三『路傍の石』)

次の例文は、行為者が話し手である点で上記の例文と共通しているが、果たして「一てもいい」は〈意向〉を表すのであろうか。

(15) 一生を北海道に暮らす気はないが、四年や五年くらいなら住んでみてもいいような気がした。(三浦綾子『塩狩峠』)

(16) どこへ行ったって、最初から、そう給金がもらえるものではないのだから、自分の一生の仕事が覚えられるところなら、はじめは我慢しててもいいと、彼は思っているとおりのことを言った。(山本有三『路傍の石』)

(17) 憎しみが私を支えた。私は今、初めて何の苦痛もなく、五来さんをこの女の手から奪いとってもいいと思った。(曾野綾子『砂糖菓子が壊れるとき』)

(15) (16) (17) は、行為者が行為を実現させたいという〈意向〉を表すというよりも、その行為の実現が許されるものだという〈許容〉の意味を表すと思われる。(15) を例にとると、北海道に暮らす気はないのだが、四年、五年くらいの期間という条件であれば受け入れられる、というような妥協的な意味合いが含まれている。このタイプの「ーてもいい」は、行為が主体にとって望ましいものかどうかという点で〈意向〉を表す「ーてもいい」と異なっていることが指摘できる。

2.1.2. 疑問文で表す「ーてもいい」

次に、疑問文の形で話し手の行為を表す「ーてもいい」の例文を見てみよう。

- (18) 「名古屋の父から、あなた宛に手紙が来てますけれど、今、お持ちしててもいいかしら――？」(山崎豊子『白い巨塔 (一)』)
- (19) 「じゃ、起しててもいい？私が、怖くなくなるまで、喋っててもいい？」「いいよ」(曾野綾子『砂糖菓子が壊れるとき』)
- (20) 「先生の補習授業、出てもいいんですか？私、志望校、国立に変えたいんです。だから、もっと数学の勉強もしないと」(橋部敦子『僕の生きる道』)

(18) (19) (20) の話し手の行為「お持ちする」「起こす」「喋る」「授業に出る」の許可を下すのは聞き手であり、話し手は聞き手から許可を得なければこれらの行為を行うことができず、「ーてもいい」の疑問文を用いて聞き手に行為の〈許可〉を求めるのである。

では、話し手の行為を表す疑問文の「ーてもいい」は必ず〈許可〉を表すのであろうか。

次の例文を見ていただきたい。

(21) (AとB：友達同士、場所：美術館)

A：ここで写真を撮っててもいいでしょうかね。

B：うん、撮っててもいいと思いますよ。

(22) 「先生、僕、結婚しててもいいですよね？」(橋部敦子『僕の生きる道』)

(21) のような、美術館などの施設で撮影の許可を下せるのは美術館の関係者であるため、Aが同行の友達Bに許可を求めるのではなく、その行為が許されるものかどうかという〈許容〉を確かめるのだと思われる。当然のことながら、Bの発話における「ーてもいい」も許可を与えるのではなく、自分の知識によって「写真を撮る」行為の〈許容〉を伝えるものである⁴。また、(22) は、「結婚する」ことの許可を下す権利は先生にあるとは考えにくいため、話し手が「ーてもいい」を用いて、結婚することが許されるものかどうか、または可能かどうかといった〈許容〉を先生に確認するのである。そして、このタイプの「ーてもいい」は、許可を求めるわけではないため、次の(23) のように、疑問文の形でその事象の許容性を自分に問いかけるという自問の場合も見られる。

(23) いま目の前にいる順正があの順正だと、約束通り私の誕生日にここに来てくれたのだと、信じてもいいのかどうかだった。(江国香織『冷静と情熱のあいだ』)

⁴ 「ーてもいい」の表す行為主体が聞き手の場合について、詳しいことは2.2.にて述べることにする。

では、次の例文はどうであろうか。

(24) (居酒屋で)

客：ビール、もらってもいいですか。

店員：??いいですよ／*いいと思いますよ／
かしこまりました。

(25) 社長：これ、コピーしてもらってもいい？

社員：??いいですよ／*いいと思いますよ／
かしこまりました。

(24) と (25) の聞き手の受け答え方から、「てもいい」は〈許可〉または〈許容〉を表すわけではないということがわかる。(24) と (25) の話し手である客と社長は、あたかも許可を求める「てもいい」を使うことで、聞き手の地位が上であるかのように見せておきながら、「ビールをください」「これをコピーしてください」といった行為要求の依頼・指示をするのである。このタイプの「てもいい」は、地位が上である話し手が語用論的に許可を求める「てもいいですか」の形で相手に丁寧に依頼するというような方略的な用い方であり、〈依頼〉を表す。

以上、行為者が話し手である「てもいい」の意味機能を検討した。高梨(2010)は未実現の事象を表す「てもいい」について、行為者が話し手の場合は〈意向〉〈許容〉を表すと述べているが、本論は「てもいい」が使われる文型を平叙文と疑問文に分けて考察した結果、〈意向〉〈許容〉のほか、〈許可〉〈依頼〉を表す場合もある、ということを示した。

2.2. 行為者が聞き手の場合

ここでは行為者が聞き手の場合の「ーてもいい」を見てみよう。

2.2.1. 平叙文で表す「ーてもいい」

次の例文を見ていただきたい。

- (26) 「すぐに刑務所へ行きたいのなら、そうしててもいいんだぞ」(星新一『かぼちやの馬車』)
- (27) 「ごめんなさいね。せつかくあなたは、我慢して赤ちゃんを持っててもいいって許してくれたのに」(曾野綾子『砂糖菓子が壊れるとき』)
- (28) 「僕のやり方に不満があるなら、はっきり云ってもいいんだよ、君の配置転換を考えるぐらいなら何でもないんだからね」(山崎豊子『白い巨塔(二)』)
- (29) 「永野君、工合が悪いんなら、無理をせずに朝から休んでもいいんだよ。君は北海道が初めてだから、秋が早くて風邪でもひいたんだろう」(三浦綾子『塩狩峠』)

(26)～(29)は、話し手が聞き手に「刑務所へ行く」「赤ちゃんを持つ」「はっきり云う」「朝から休む」という行為の許しを下し、「ーてもいい」を用いて〈許可〉を与えるのである。それに対して、次の(30)と(31)は、話し手が聞き手の行為の許可を下す立場ではないため、「お父さん」「友達B」に許可を与えるとは考えにくく、「ーてもいい」は「家に帰る」「写真を撮る」という行為に差し支えない、または可能である、といった〈許容〉の意味を表す。

- (30) 「しばらくいるといいよ。ひとりになりたいんなら、お父さん、家に帰っててもいいぞ。」(吉本ばな

な『体は全部知っている』)

(31) (AとB：友達同士、場所：美術館)

A：ここで写真を撮ってもいいでしょうかね。

B：うん、撮ってもいいと思いますよ。(前掲(21))

このように、行為の許可を与える立場にあるかどうかという話し手と聞き手との関係で、「一てもいい」の意味が変わってくるのが明らかである。

次の例文を見ていただきたい。

(32) ご希望の仕事ではないが、給料がいいし、いい経験にもなるから、試してもいいと思うよ。

(33) 「あんたも遊びに来な、留学しに来てもいいよ。」
(吉本ばなな『体は全部知っている』)

(34) 「名前なんて、記号みたいなものじゃないか。きみの宏一の一字をとり、宏太郎なんてつけてもいいだろう」(立原正秋『冬の旅』)

(32)(34)(35)は、話し手が「試す」「留学しに来る」「宏太郎という名前をつける」の許可を聞き手に与えるのではなく、その行為を提案するといった〈勧め〉の意味を表すと考えられる。これらの例文における「一てもいい」は行為の実現が聞き手にとって好ましいものだとし話し手が認識し、それを聞き手に勧める用法である。なお、〈勧め〉と〈許容〉については、例えば、前述した(31)はお父さんがその状況の中で「帰る」ことを望むかもしれないとし話し手が聞き手の気持ちを押し量り、その行為を行っても大丈夫だという〈許容〉を伝えるものである。それに対して、〈勧め〉の場合は、行為者の聞き手がその行為を望むかどうかは特に重要視されず、あくまでも話し手はその行為が聞き手にとってプラスに

なるものだと考え、自ら提案を切り出すのである。したがって、両者の違いは、行為者である聞き手の行為への想定または期待の有無にある、ということが指摘できる。

2.2.2. 疑問文で表す「ーてもいい」

ここでは、聞き手の行為を疑問文で表す「ーてもいい」の例文を見てみよう。

- (35) 「よう、起きてるな」と云ってこぶの清七がはいって来た、「もうあるいてもいいのか」(山本周五郎『さぶ』)
- (36) 本当に好きだったら、ダメ元で告白してみてもいいんじゃないか。

行為者が聞き手の場合は、前節で述べたように、話し手が平叙文の形で許可を伝えることが可能であるが、疑問文を用いて許可を与えることは考えにくい。上記の(35)は「あるく」ことが可能かどうかという相手の行為の〈許容〉を確認し、(36)は、「んじゃないか」といった文型を用いて、聞き手にとって好ましいと思われる行為「告白してみる」を提案するといった〈勧め〉を表すのである。

以上、行為者が聞き手である「ーてもいい」の意味を考察した。その結果、「ーてもいい」は先行研究で指摘された〈許可〉と〈許容〉のほかに、行為者である聞き手への提案の〈勧め〉を表す場合もある、ということが指摘できる。

2.3. 行為者が話し手と聞き手以外の場合

2.3.1. 平叙文で表す「ーてもいい」

2.1.と 2.2.では、行為者が話し手と聞き手の場合を表す「ーてもいい」を考察した。ここでは、行為者が話し手と聞

き手以外の場合を見てみよう。

- (37) 明日のパーティーに太郎が来てもいいです。
- (38) 来月のカラオケ大会に花子が参加してもいいですよ。
- (39) 「じゃあ、わたしが誰か他の男性と付き合うようになってもいいのね。わたしのことを順正以外の人が可愛がってもいいのね。」(辻仁成『冷静と情熱のあいだ』)
- (40) 「あの人あたしとおないどしの十九でしょ、もうとっくにお嫁にいてもいいとしなのに、なかなかうんと云わないんですって、もし売れ残ったらどうするのかしら」(山本周五郎『さぶ』)

(37) (38) は、話し手は「一てもいい」を用いて行為者の「太郎」「花子」に「パーティーに来る」「カラオケ大会に参加する」という行為の〈許可〉を与える。一方、(39) (40) は、話し手が行為者の「順正以外の人」と「あの人」に許可を与えるのではなく、(39) は順正が「順正以外の人」が自分のこと(=話し手)を可愛がる」ことを許し、(40) は「あの人がお嫁に行く」ことが許される、といった〈許容〉の意味を表す。

2.3.2. 疑問文で表す「一てもいい」

では、行為者が話し手と聞き手以外の場合を表す疑問文の「一てもいい」はどのような意味を表すのであろうか。

次の例文を見ていただきたい。

- (41) 明日のパーティーに太郎が来てもいいですか。
- (42) 来月のカラオケ大会に花子が参加してもいいです

か。

- (43) 「そんなことをすれば、私はまた騒ぎだしますぞ。それではわざわざ病人を悪くするようなものだ。一体病院がそんなことをしててもいいものですか？」(北杜夫『楡家の人びと』)

(41)(42)は、話し手が行為者の代わりに、聞き手に「パーティーに来る」「カラオケ大会に参加する」ことができるかどうかという行為の〈許可〉を求める例文であり、(43)は、話し手が行為者である「病院」の行う行為の許可を求めるのではなく、「そんなことをする」は果たして許されるものかどうか、といった〈許容〉を表すと言えよう。なお、次の例文の示すように、話し手が代わりに第三者の行為の許可を求める「てもいい」は、行為者が話し手にとって身内または親しい間柄でなければ、不自然な表現になってしまうことが明らかである。

- (41) '?? 明日のパーティーに唐沢寿明が来てもいいですか。

- (42) '?? 来月のカラオケ大会に小林幸子が参加しててもいいですか。

以上、行為者が話し手と聞き手以外の場合を考察した。その結果、「てもいい」は〈許可〉と〈許容〉を表すことが明らかになった。

2.4. 行為者が不特定の場合

「てもいい」の表す行為の主体は、次の例文の示すように、特定できない場合も見られる。

2.4.1. 平叙文で表す「てもいい」

次の例文を見ていただきたい。

- (44) 日本でも、音をたてて食事をしててもいいのは、ソバやうどんを食べる時だった。ソバやうどんはああいう細長いものである以上、音をたてて吸い込むのはやむを得ないと黙認されているが、その他の食事をズルズルと啜っててもいいということにはならない。(森瑤子『ハンサム・ウーマンに乾杯』)
- (45) 「しかしな、愛川、人間、何をやっててもいいんだ。一番大事なことは、まっすぐに生きることだ。」
(山本有三『路傍の石』)
- (46) 会員制でお金を払っていると思ったとたん、その人の人格がまるっきり変わってしまうこともある。そこではなにをしててもいいとってしまうことがある。(吉本ばなな『体は全部知っている』)
- (47) ぽっちゃりした上半身と、品のいいお嬢さんふうの雰囲気ので、このひとは実際の年齢よりも若くみえる。ういういしいといてもいいくらいだ。(江国香織『冷静と情熱のあいだ』)

(44) と (45) は、「音をたてて食事をする」「食事をズルズルと啜る」「やる」という行為が容認されるものであるが、行為者は不特定であり、話し手でも聞き手でもない。(44) を例にとると、「音をたてて食事をする」「食事をズルズルと啜る」は一般社会で許されることであり、誰がその行為を行っても可能である、といった〈客観的可能〉の意味を表す。また、(46) は会員であれば、そこで何をしてもかまわないといった可能性を表し、(47) は話し手だけでなく、「このひ

と」を誰から見ても「ういういしいと言う」ことが考えられる。このように、このタイプの「一てもいい」は、動詞の表す行為は誰でも行うことが可能であるため、行為者が不特定となり、〈客観的可能〉を意味する。

2.4.2. 疑問文で表す「一てもいい」

ここでは行為者が不特定な場合を表す疑問文の「一てもいい」を見てみよう。

(48) 私は自分の脈を計った。一〇四もあった。一〇四もあれば、病気だと言ってもいいのではないだろうか。(曾野綾子『砂糖菓子が壊れるとき』)

(48) は、脈が一〇四もあったというような状況を客観的に判断すれば、誰でも「病気だと言う」ことが確かであろうと話し手が判断し、「のではないだろうか」の形で〈客観的可能〉を控えめに伝えるのである。

以上、行為者が不特定な場合を表す「一てもいい」を考察した結果、「一てもいい」は〈客観的可能〉を表すことが明らかになった。

3. 状態を表す「一てもいい」の意味機能について

2節では行為を表す「一てもいい」の意味機能を考察した。未実現の事象を表す「一てもいい」は動作主体の行為以外に、状態を表すこともある。ここでは2節と同様に、平叙文と疑問文に分けて、状態を表す「一てもいい」の意味を考察していく。

3.1. 平叙文で表す「一てもいい」

次の例文を見てみよう。

- (49) しかし、もっと悲しい展開があってもいいと思います。(星新一『かぼちやの馬車』)
- (50) いくら止める人がいないからと言っても、ふたりなのに三人前もとれば余るに決まっている。なのに、その辺の判断のツメが甘いところがくいしんぼう同盟の憎めないところなのだ。余ってもいいから食べてみたかったのである。(さくらももこ『さくら日和』)
- (51) 「親馬鹿だと笑われてもいい。実のところ、おれは美沙に縁談をことわれたと告げるに忍びなかったのだ。」(三浦綾子『塩狩峠』)
- (52) その教えのごとく、敵を愛して死ぬことのできたイエスを思うと、信夫はだまされてもいいから、このイエスの言葉に従って生きたいと、痛切に感じた。(三浦綾子『塩狩峠』)

(49) (50) の「-てもいい」における動詞「ある」「余る」はいずれも非意志動詞であり、話し手のコントロールできるような事象ではないため、許可を述べることが考えられず、その事象が受け入れられる、といった〈許容〉を述べる。また、(51) (52) の「笑われる」「だまされる」も、「笑う」「だます」の行為者が主体以外の動作主であるため、話し手や主体である「信夫」はそのこと自体をコントロールすることができず、「笑う」こと、または「だます」ことをされても大丈夫、耐えられるといった〈許容〉を表すのではないかと思われる。

3.2. 疑問文で表す「-てもいい」

では、状態を表す「-てもいい」の疑問文の場合はどうだろうか。

- (53) 「じゃあ、先生は僕の将来が台無しになってもいいんですか。」(橋部敦子『僕の生きる道』)
- (54) 「あら、そうじゃないわよ、ほんとに真面目で頼むんだから、そのくらいな親切があってもいいでしょ？」(谷崎潤一郎『痴人の愛』)

(53) と (54) の「台無しになる」「そのくらいな親切がある」は非意志動詞であり、話し手が聞き手にそのようなことが起こるとしたら受け入れられるのかという問いをかける用法であり、「-てもいい」は〈許容〉を表すのである。

4. おわりに

本論は、行為者の特徴と文の種類という観点から「-てもいい」の意味を考察した。その結果は表2のようにまとめられる。

表2 未実現の事象を表す「-てもいい」の意味

文の種類 行為者の特徴	平叙文	疑問文
[行為] 行為者：話し手	〈自分のための意向〉 〈他者のための意向〉 〈許容〉	〈許可〉 〈許容〉 〈依頼〉
行為者：聞き手	〈許可〉 〈許容〉 〈勧め〉	〈許容〉 〈勧め〉
行為者：話し手と聞き手以外	〈許可〉 〈許容〉	
行為者：不特定	〈客観的可能〉	
[状態]	〈許容〉	

表2からわかるように、「一てもいい」の表す行為者は話し手や聞き手といった特定できる場合もあれば、特定できない場合もある。また、平叙文と疑問文に分けて「一てもいい」の意味を検討することによって、話し手と聞き手との関係、及び行為可否の決定権の所在から、これまで指摘された〈許可〉〈許容〉のほかに、〈自分のための意向〉〈他者のための意向〉〈依頼〉〈勧め〉〈客観的可能〉などの意味も表せることが明らかになった。これらの意味は、話し手と行為者との関係や、平叙文か疑問文かといった「一てもいい」の使われる文型などのファクターによって決まってくると考えられる。

さて、本論では肯定形式につく「一てもいい」しか取り上げなかったが、「一なくてもいい」の意味機能を明らかにするには、否定形式の「一なくてもいい」も考察しなければならない。また、集めた例文を検討したところ、「一てもいい」が使われているのは会話文がほとんどであるため、会話文と地の文で使われる「一てもいい」の意味用法にはどのような違いが見られるのかについても検討する必要がある。さらに、次の例文の示すように、「一てもいい」には可能表現と置き換えられる場合と置き換えられない場合があるため、可能表現とどう関わっているのかについても明らかにしたい。これらの課題は次稿に委ねる。

- (32) ' ??ご希望の仕事ではないが、給料がいいし、いい経験にもなるから、試せると思うよ。
- (44) ' 日本でも、音をたてて食事できるのは、ソバやうどんを食べる時だった。
- (48) ' 一〇四もあれば、病気だと言えるのではないだろうか。

〈参考文献〉

- 今井邦彦（2001）『語用論への招待』大修館書局
- 井出祥子（2006）『わきまへの語用論』大修館書局
- 奥田靖雄（1996）「現実・可能・必然（中）－「していい」と「してもいい」－」『ことばの科学 7』むぎ書房
- 砂川有里子（2006）「『～てもらっていいですか』という言い方－指示・依頼と許可求めの言語行為－」『言外と言内の交流分野：小泉保博士傘寿記念論文集』大学書林
- 高梨信乃（1995）「シテモイイとシテイイ－条件接続形式による評価的複合表現②－」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（上）単文編』くろしお出版
- （2010）『評価のモダリティ－現代日本語における記述的研究』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会（2003）『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ』くろしお出版
- 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃（2002）『モダリティ』くろしお出版
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店
- ・松木正恵（1989）『日本語表現文型－用例中心・複合辞の意味と用法』アルク

付記：本論は、「現代日本語における可能表現について－非典型的可能表現を中心に（Ⅱ）－」（台湾行政院国家科学委員会若手研究、計画番号 NSC 99-2410-H-032-064-）に基づく研究成果の一部である。

References

- Imai, K. (2001) *Goyoron e no Shotai*. Taishukan Shokyoku, Japan.
- Ide, S. (2006) *Wakimae no Goyoron*. Taishukan Shokyoku, Japan.
- Miyazaki, K. Adachi, T. Noda, H. and Takanashi, S. (2002) *Modality*. Kuroshio Shuppan, Japan.
- Morida, Y. (1989) *Kisonihongojiten*. Kadokawa Shoten, Japan.
- Morida, Y. and Matsumoto, M. (1989) *Nihogohyogenbunkei: Yoreichushin, Fukugojinoimi to Yoho*. Aruku, Japan.
- Nihonkijutsubunpokenkyukai. (2003) *Gendainihongobunpo, No.4 Part.8: Modality*. Kuroshio Shuppan, Japan.
- Okuda, Y. (1996) Genjitsu, Kano, Hitsuzen(chu): “shiteii” to “shitemoii”. *Kotoba no Kagaku, No.7*, Mugi Shobo, Japan.
- Sunagawa, Y. (2006) “-temoratteiidesuka” toiu Iikata: Shiji, Irai to Kyokamotome no Gengokoi. *Gengai to Gennai no Koryubunya: Dr. Koizumi T. Sanjukinenronbunshu*. Daigakushorin, Japan.
- Takanashi, S. (1995) “shitemoii” to “shiteii”: Jyokensetsuzoku-keishiki niyoru Hyokatekifukugohyogen 2, *Nihongoruigihyogen no Bunpo(jyo) Tanbunhen*. Kuroshio Shuppan, Japan.
- Takanashi, S. (2010) *Hyoka no Modality: Gendainihongo niokeru Kijutsutekikenkyu*. Kuroshio Shuppan, Japan.